

ダイダイ挿し木苗 里帰り

地元生産者 静大生研究者 ブランド化へ第一歩



ダイダイの挿し木苗を植える(左から)松本教授、厚味さん、岡野谷さん。熱海市上多賀

熱海市の特産ダイダイを生産する「シトライ・カンパニー」(岡野谷伸一郎代表)と静岡大は11日、ダイダイの挿し木苗を上多賀の畑に植えた。挿し木により形質が安定化し、使い道に合わせた栽培が可能になるといい、ダイダイのブランド化に向け期待が懸かる。

同社と同大農学部園芸イノベーション学研究室が共同で取り組むプロジェクトの一環で、プロジェクトリーダーの厚味莉歩さん(4年)らが大学のほ場で研究してきた15本の苗1本を植えた。苗は昨年5月に岡野谷さんの畑で実生(みしよ

う)の木から切り取った枝を育てた。厚味さんらは糖や酸など形質の安定した

木を挿し木で増やす可能性を研究している。ダイダイの根はウィルスにかかりやすいため、カラタチを使った接ぎ木が多く、これまで挿し木は行われてこなかったという。

厚味さんは「熱海ダイダイを象徴する一本となるように育てほしい」と話した。岡野

谷さんは「挿し木苗を植えるのは初めて。他地域との差別化をはかるための第一歩になる」と話した。

苗は風よけを設置し、根が安定するまで保護する。同研究室の松本和浩教授によると、根がつけば年内には約1坪にまで育つという。